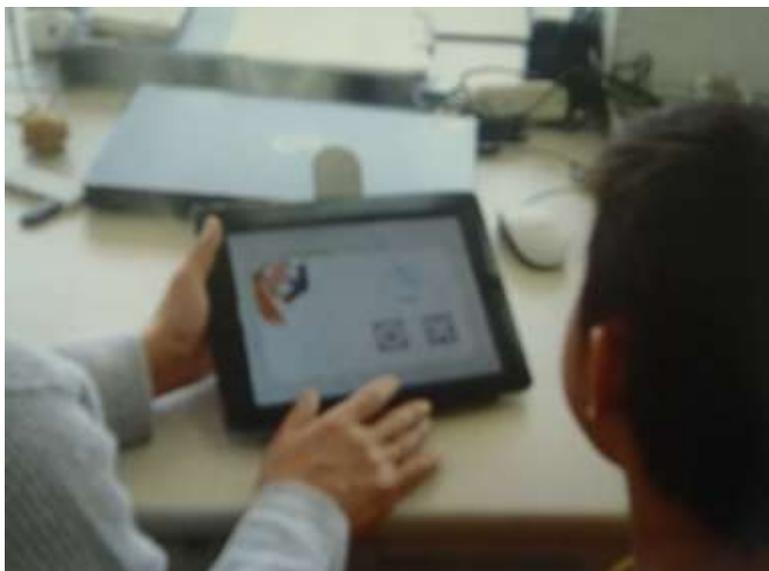


発達障害の可能性のある児童生徒等への支援事業報告会

鳥取県の取組

小学校低学年における平仮名の読みの困難さの
早期発見と早期支援の在り方について
～地域のシステムづくり～



鳥取市



倉吉市

平成28年2月1日 鳥取県教育委員会事務局特別支援教育課

鳥取県における取組の方向性

児童生徒の学力向上及び不適応行動の未然防止

鳥取県教育委員会
全県への情報発信・理解啓発
＜読み書き等に関する研修会の実施＞
＜県内小学校への情報提供＞

連携

支援

連携

鳥取市全小学校に おける取組

- ・鳥取大学方式の実施
- ・実施後の検証
- ・取組推進のための研修会実施

倉吉市全小学校に おける取組

- ・MIMの実施
- ・実施後の検証
- ・取組推進のための研修会実施

鳥取大学との連携

研究のテーマ

【鳥取市】(小学校数:44校) 平成26年度から27年度
鳥取大学との連携による「鳥取大学方式」による読みの困難さの
早期発見と多面的な早期発見の在り方について

※「鳥取大学方式」とは

文字の読み書きに特異的な困難がある学習障がい(特異的
読み書き障がい)を早期に発見し、症状として固定する前に
指導を行う方式

【倉吉市】(小学校数:14校) 平成27年度

多層指導モデル「MIM」による異なる学力層の子どものニーズに
対応した指導の在り方について

※多層指導モデル「MIM」とは

特殊音節に焦点を当てて、文字や語句を正しく読んだり
書いたりできることを目指す指導教材

地域のシステムづくりに向けて ～地域内の全小学校で取り組むために～

◎発達障がい支援アドバイザーの配置

- ・各小学校への指導・助言
- ・実施検査等の結果分析や必要な支援の検討

◎管理職への説明や理解啓発

◎取組の中心となる教職員への理解啓発

◎保護者への理解啓発

倉吉市におけるMIMの体制づくり



平成27年度の取り組み内容

倉吉市

月	取 り 組 み 内 容
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・校長会で説明 ・特別支援教育主任者研修会(MIM実施連絡)
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・各小学校1年生訪問 「はじめてのひらがな指導」について1年生担任との面談 ・第1回指導者研修会 講師 杉本陽子教諭(MIMについての講義・演習)
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・各校で「MIM-PM」実施開始
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期2回の検査結果検討会
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・各小学校巡回指導(2回の結果報告、具体的指導について) ・第2回指導者研修会 講師 県内小学校教諭(2ndステージ指導について)
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者理解啓発用通信発行(MIM実施について) ・モジュールタイム支援開始
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・事業取り組みアンケート
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・第3回指導者研修会 市教委支援アドバイザー(2学期検査結果・3rdステージ指導) ・今年度の検査結果検討会 ・倉吉市子どもの発達支援研修会にて事業報告 「学齢期における早期支援 ～MIMの取り組みを通じて～」
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・第4回指導者研修会 (実践発表・今後につながる支援について・今年度のまとめ)
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度取り組み計画作成

◎毎月1回MIM-PM実施
 ◎毎月1回検査結果報告通信発行 担任・学校向け
 ◎保護者理解啓発用通信発行
 ◎自作教材紹介・データ配布

実施体制・方法

教育委員会

事業説明
「MIM」実施

検査用紙

校長
特別支援教育主任

各校
1年生担任

- ・市教委指導主事
- ・発達障がい支援アドバイザー
- ・LD等専門員
- ・倉吉市子ども家庭課児童指導員

- ・集計結果
- ・通信(担任・保護者)

- ・具体的指導方法
- ・指導事例
- ・教材紹介
- ・教材配布

研修会

- ・分かりやすい授業
- ・モジュールタイム・宿題活用
- ・柔軟な指導体制の工夫と実践
- ・教材作成

- ・校内支援体制の工夫
- ・職員研修
- ・保護者の理解啓発
- ・他機関との連携

指導者研修会

第1回研修会(5月)「MIMについて」



- ・「MIM」ってなあに？ 概要研修
- ・検査演習
- ・具体的指導について

第2回研修会(8月) 「2ndステージ指導について」



- ・分かりやすいひらがな指導について
- ・1stステージ、2ndステージについて
- ・具体的指導について(演習)

第3回研修会(1月) 「2学期の結果と3rdステージ指導について」



- ・児童の意識アンケート
- ・倉吉市の得点の推移について
- ・具体的指導について(演習)
- ・3rdステージについて
- ・取り組みの感想
- ・成果と課題(協議)

発達障がい支援アドバイザーによる 具体的支援事例1

①巡回訪問

○5～6月

- ・「はじめてのひらがな指導」について(動作化・視覚化について)
- ・1年生訪問(教育委員会、子ども家庭課)
就学前からの引継ぎ児童、気になる児童への支援について

○夏季休業中

- ・1学期の結果について
- ・ひらがな指導教材の紹介、具体的指導法について

②モジュールタイム支援

○多様な教材を使った指導

- ・リレー音読
- ・プリント
- ・拗音ゲーム 等々



発達障がい支援アドバイザーによる 具体的支援事例2

③教材紹介



個別・少人数で使用できるカード類



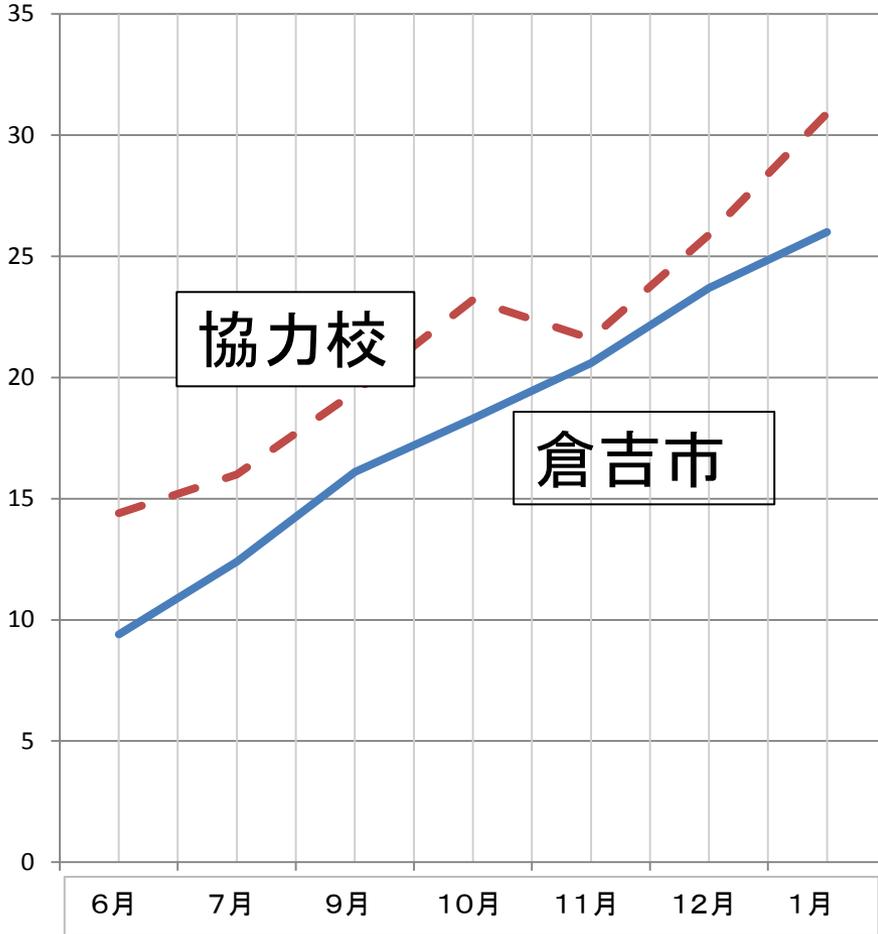
自作詩集・プリント類

全員で

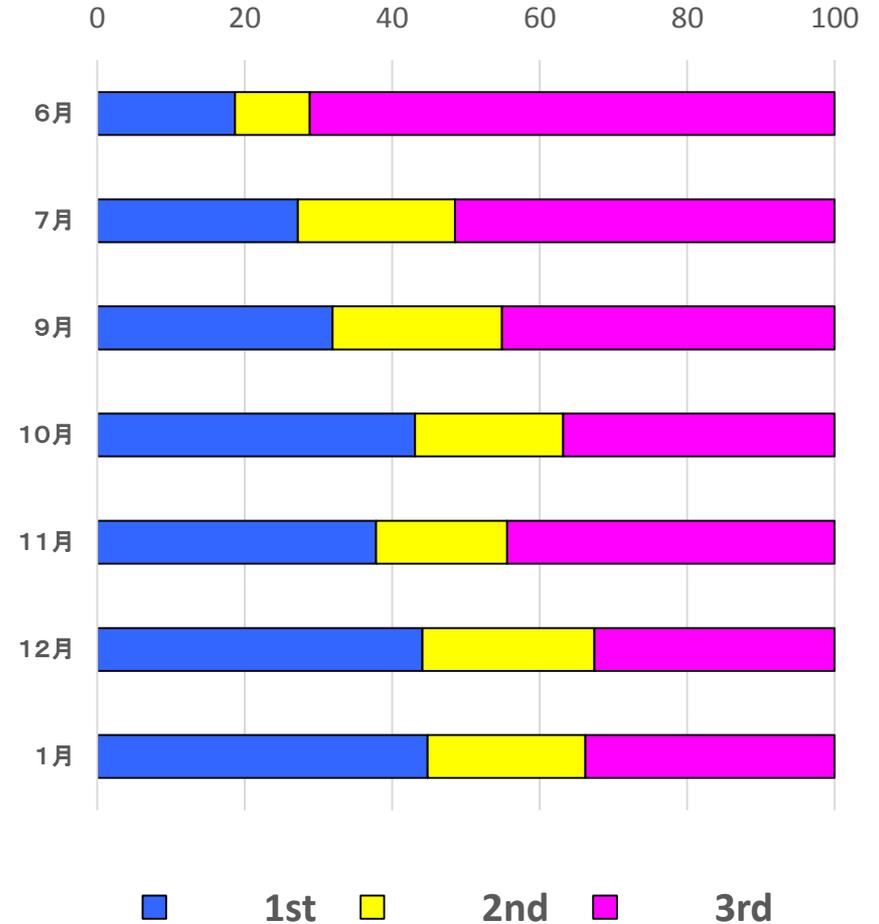


【参考】 検査結果

① 倉吉市平均点の推移



② 倉吉市各ステージ児童の割合の推移



【成果】

- 「ひらがなの読み」の定着の実態把握
⇒分かりやすい授業(視覚支援・動作化・声かけ・座席配置等)
- 読字だけでなく、表記・語彙力の向上
- 自作教材・「MIMパッケージ」教材をモジュールタイムや隙間時間、宿題等に活用
- 保護者向け通信や保護者懇談会による保護者の理解推進
- 校内研修による職員間の理解推進

【課題】

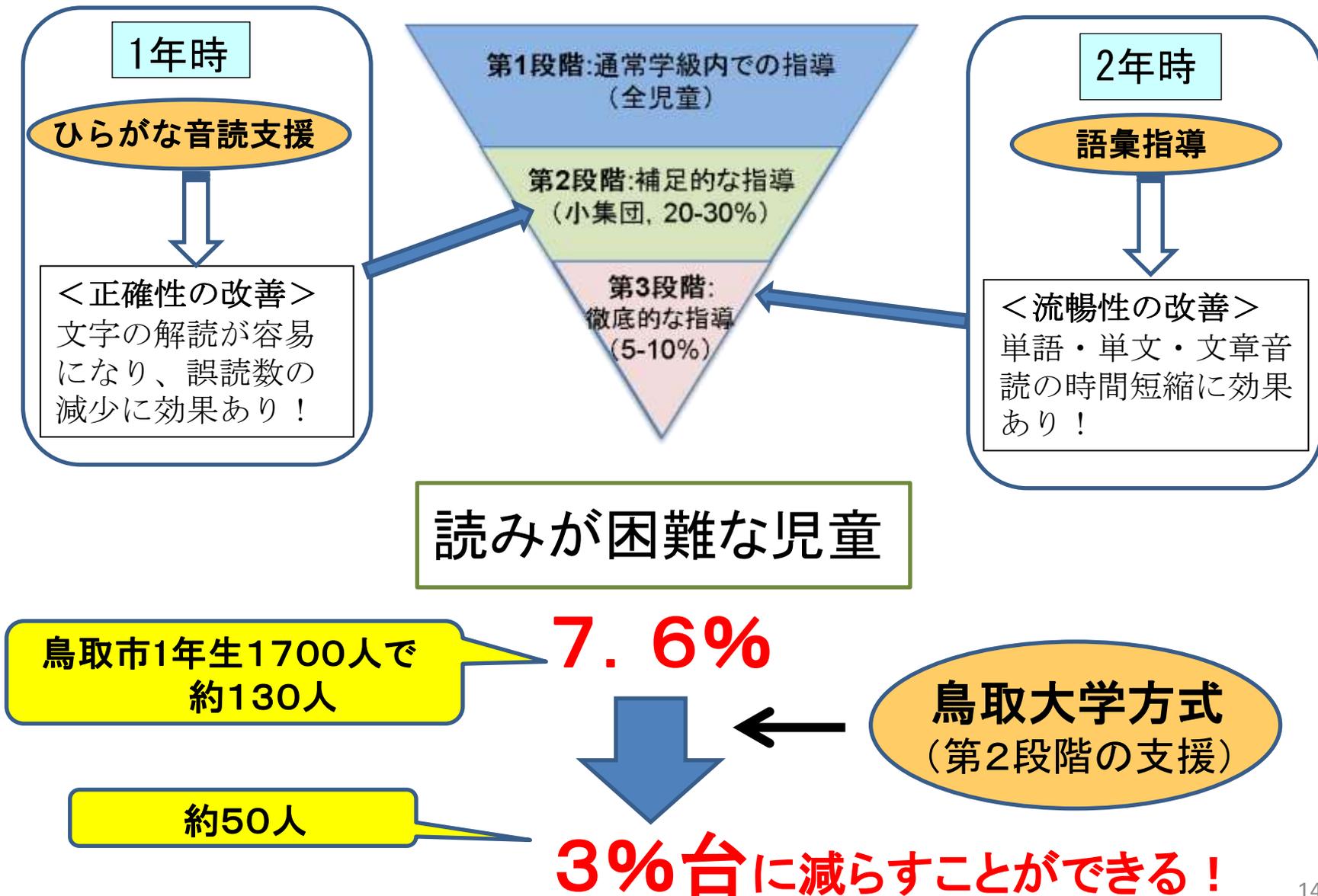
- ◇各校への1学期の支援の充実
- ◇校内支援体制の構築
 - ・職員研修
 - ・個別指導の必要な児童への指導時間・指導者の確保
 - ・指導用のカード・プリント等の作成協力
- ◇専門機関との連携

鳥取市における ひらがな音読支援の取り組み



鳥取市教育センター

鳥取大学方式とは？



鳥取市全体実施に向けた流れ

鳥取市

【平成25年度】

(1) 小学校校長会での説明

※事前に執行部に説明



(2) 研修会の開催(自主)

「ひらがなの音読が困難である子どもの支援
～鳥取大学方式の取り組みの実際～」

講師：鳥取大学地域学部

教授 小枝 達也先生

(3) 先行実施

※南中校区 4小学校で実施



鳥取市全体実施に向けた流れ

【平成26年度】

(1) 小学校校長会での説明 4/15・5/9

(2) 実施に向けた研修会の開催 6/3・6/5

各小学校から1名以上の参加

(より詳細な説明を希望する学校には、訪問説明6/9～6/20)

(3) 保護者への周知・同意 6/9～6/20

保護者宛文書(雛型あり)

パンフレット

(4) 第2回研修会 10/23～10/23

実施方法の徹底を目的(希望者のみ参加)

※平成27年度も同時期に同じ内容で行った

第1回音読確認

◆直音連続読み

1分間に読めた文字数 ≤ 54

音読支援

音読支援は5分 \times 21回

◆学校訪問により、音読支援児童についての聞き取り(夏季休業中)

第2回音読確認

◆直音連続読み

1分間に読めた文字数 ≤ 70

◆単音連続読み

未習得数 ≥ 6 個 音読時間 ≥ 63 秒

音読支援

音読支援は5分 \times 21回

音読支援は、
すべて学校で実施

第3回音読確認

◆単音連続読み

未習得数 ≥ 9 個 音読時間 ≥ 67 秒

◆単文音読

音読時間合計 ≥ 35 秒

音読支援

音読支援は5分 \times 21回

◆学校訪問により、2年時の支援についての検討(学年末)

音読確認と音読支援の流れ

★学校 ☆鳥取市教育センター

【音読確認】

★メールで各校に連絡（保護者宛文書雛形データ送付）

★課題シート、確認用紙の配布（専用通い封筒）

★確認実施

★確認用紙 ⇒教育センター★ ⇒鳥取大学
（音読支援対象者確認）



【音読支援】

★抽出児童は大学の結果確認を受けて教育センターより学校連絡

（保護者宛文書雛形・がんばりカード・ダウンロードの仕方 データ送付）

★支援の必要な保護者への連絡

★支援については、教育センターよりタブレットの貸し出し

★音読支援は21回

★終わり次第、がんばりカードとタブレットを返却

平成26年度「鳥取大学方式ひらがな音読支援」結果概要 H27. 3. 24

回数	実施者数	要支援者数	改善率%	支援者%
1回目(6月下旬) 直音連続読み	1,692人	147人		8.69
2回目(11月上旬) 直音連続読み 単音連続読み	1,695人	131人	57.82	7.73
		改善者:85人 継続支援者:62人 新規支援者:69人		
3回目(1月中旬) 単音連続読み 単文音読	1,695人	62人	74.81	3.66
		改善者:98人 継続支援者:33人 再支援者:7人 新規支援者:22人		
3回目(再確認) 単音連続読み 単文音読		42人	90.91 (タブレット支援を行った 22名の改善率)	2.48
		改善者:118人 継続支援者:33人 再支援者:7人 最終支援者:2人		

27年度 新たな取り組み1

★ 「語彙指導アプリ」を活用した支援(2年生を対象)

(1) 支援対象

平成26年度に実施した「ひらがな音読支援」で十分な成果が得られなかった児童(現2年生)のうち希望者を対象

(2) 目的

- ・単語をまとまりですらすらと読む力を伸ばす
- ・語彙を増やすこと

(3) アプリの内容

基本: ○単語(国語の教科書の語句)を使用した例文作り

付属: ○単語の読み練習と意味の確認(トレーニング)

○アプリが読み上げる単語の音や意味に合うカードを探すゲーム
(ことばカルタ)

(4) 支援方法

○1週間に45分間の指導を行う。(個別指導)



★ 多層指導モデル「MIM」を活用した指導(希望校)

(1) 目的

- ・つまずきの多い特殊音節(促音・拗音・長音・拗長音)の読みの定着
- ・文字を単語としてとらえ、読みの速度向上
- ・語彙の拡大と使用

(2) 対象

抽出校の1年生(全員)・・・希望校

負担なく取り組める
よう、内容を精選!

(3) 活用方法

- ① 毎時間国語の授業のはじまりに動作化(1~2語)
- ② 帯タイム(パワーアップ)での教材活用(週に1回)
- ③ 定着チェック(9月・12月)
 - ※ 特殊音節(促音・拗音・長音・拗長音)の授業活用グッズ
 - ※ ゲームグッズ

(4) 検証

第2回・3回の「ひらがな音読確認」での効果

成果と課題

【成果】

- ひらがな読みの定着
- 定着状況の把握
 - ⇒教師の意識の向上及び授業改善
- 保護者への定着状況の理解



【課題】

- ◇時間・人・場所の確保
 - 校内体制をどのようにつくるか
- ◇実施回数とタブレットの問題
- ◇改善しなかった児童への2年生以降の支援
- ◇家庭での協力を検討すべき



今後の課題

- 「鳥取大学方式」と「多層指導モデルMIM」それぞれの取組の成果は見られている。
 - ⇒県内への積極的な情報発信による全県の体制づくり
 - ⇒通常の学級における授業改善及び個別指導の充実を目指し、「鳥取大学方式」と「多層指導モデル」の融合の検討
 - ⇒通常の学級における教材教具の整備
 - ⇒読み書きのつまずきの要因分析の充実